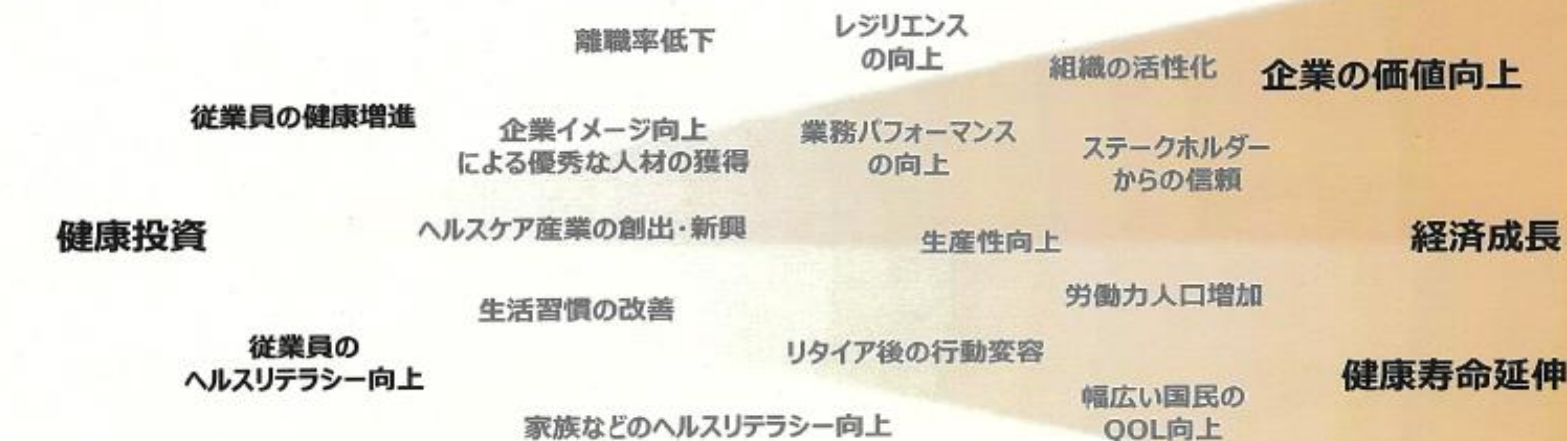


●健康経営の目指すべき姿

健康経営の目指すべき姿

第9回健康投資ワーキンググループ
事務局説明資料（令和5年7月18日）



日本経済社会を支える
基盤としての健康経営

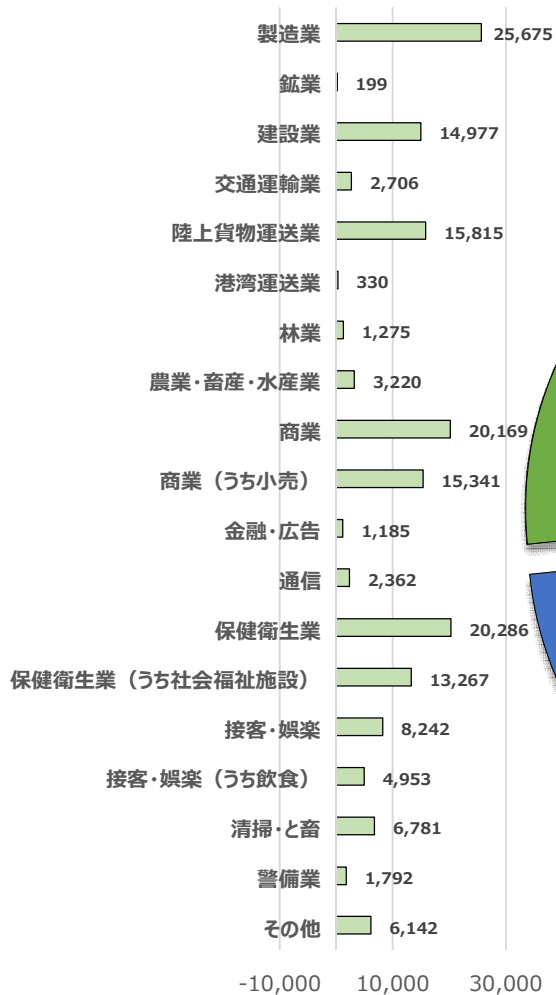


- 1 健康経営の可視化と質向上**
健康経営の効果分析と適切な指標の検討
(健康増進、生産性・エンゲージメント向上等)
- 2 新たなマーケットの創出**
健康経営を支える産業の創出と
国際展開の推進
- 3 健康経営の社会への浸透・定着**
中小企業への普及拡大
制度運営の完全民営化

1. 健康経営に取り組む背景
2. 健康経営とは・・・
- 3. 健康経営の推進（攻めの健康経営・守りの健康経営）**
4. 健康経営優良法人2023認定事業所の取組事例
5. 協会けんぽの健康事業所宣言
6. 最後に・・・

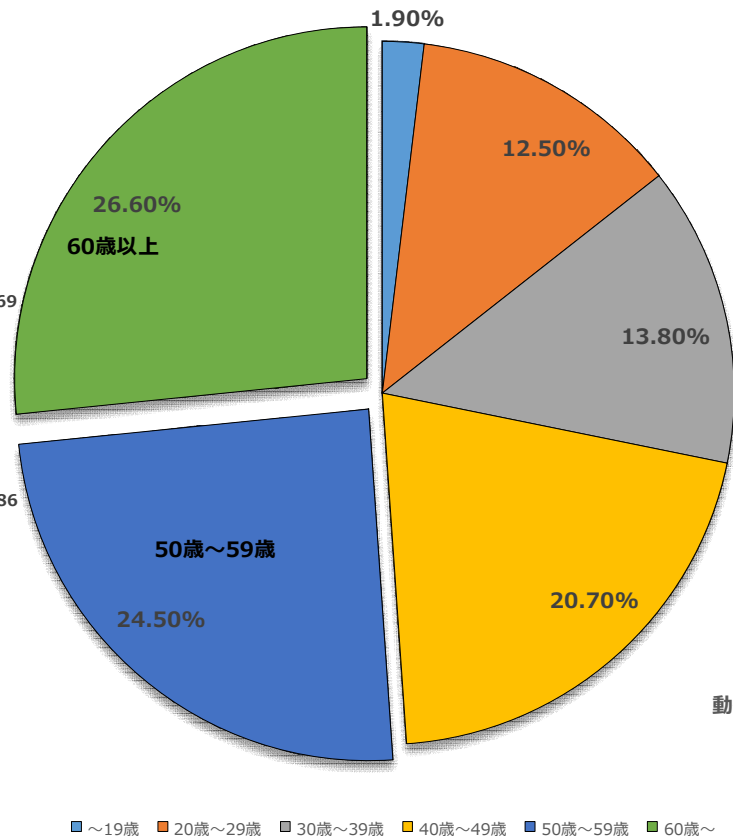
●守りの健康経営① ～リスクマネジメント・労働災害の発生

業種別休業4日以上死傷者数（2020年）



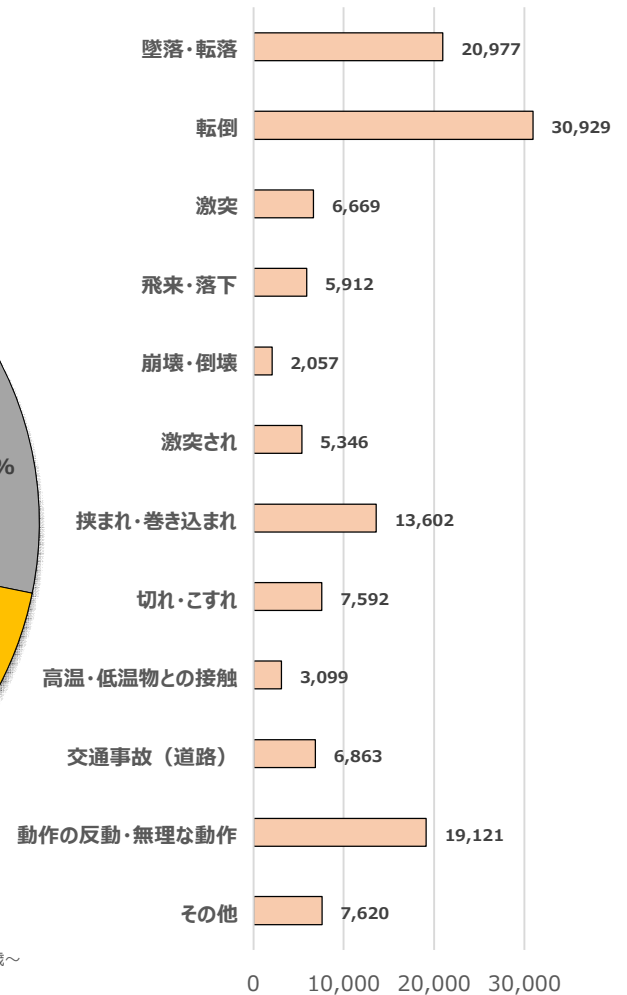
■ 4日以上死傷者数

年齢別死傷災害発生状況



■ ～19歳 ■ 20歳～29歳 ■ 30歳～39歳 ■ 40歳～49歳 ■ 50歳～59歳 ■ 60歳～

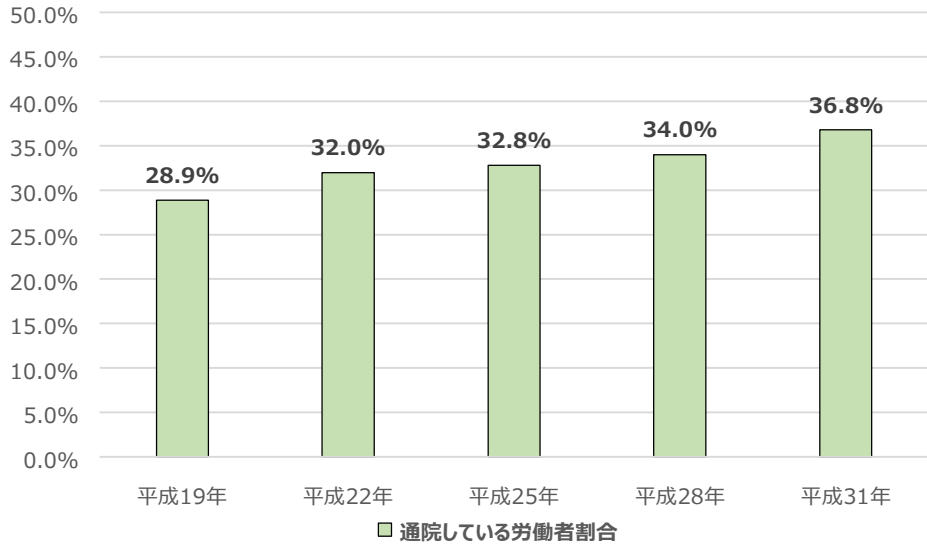
事故の型別死傷災害発生状況（2020年）



■ 死傷災害発生数

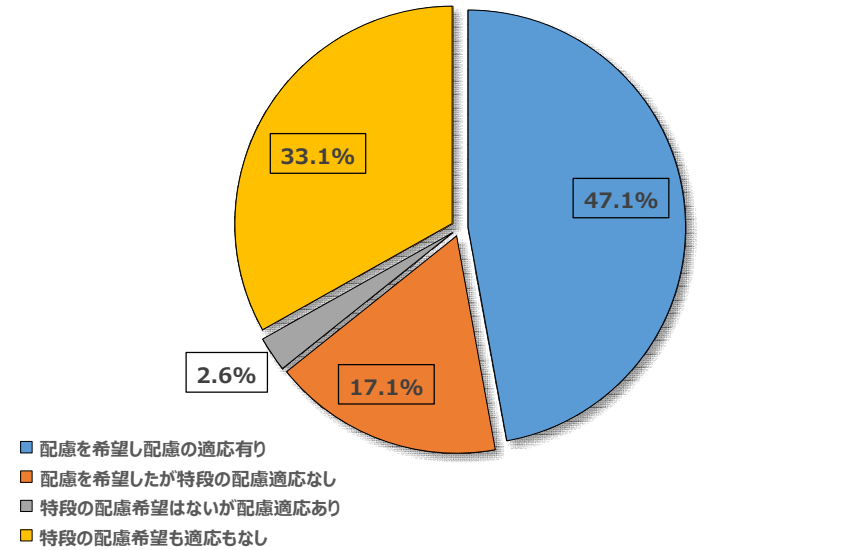
●守りの健康経営② ～治療と仕事の両立支援の現状と課題

何らかの疾患で通院している労働者の割合



出典：厚生労働省「国民生活基礎調査」

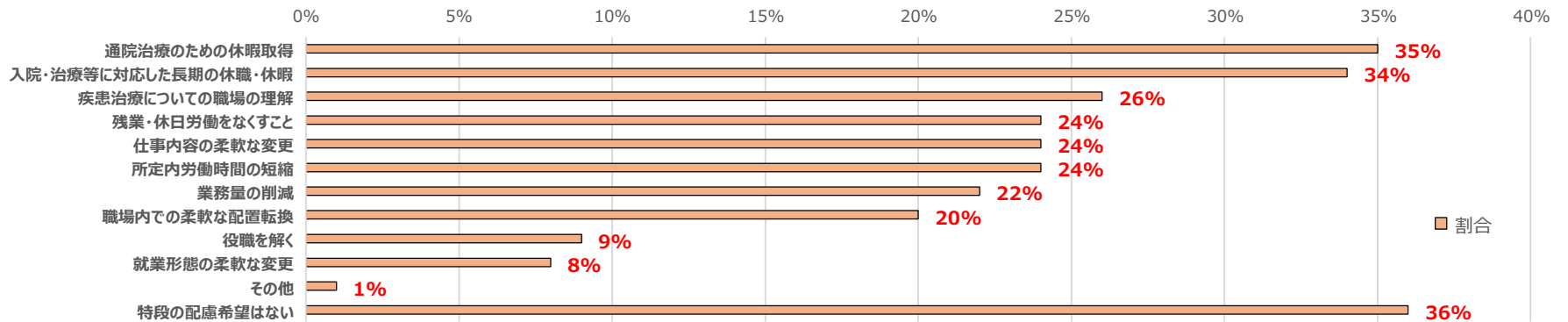
職場における疾病を抱える労働者の治療期間中の配慮希望と適応



出典：独立行政法人労働政策研究・研修機構2018年報告「病気の治療と仕事の両立に関する実態調査（WEB患者調査）」

治療と仕事の両立支援の現状と課題

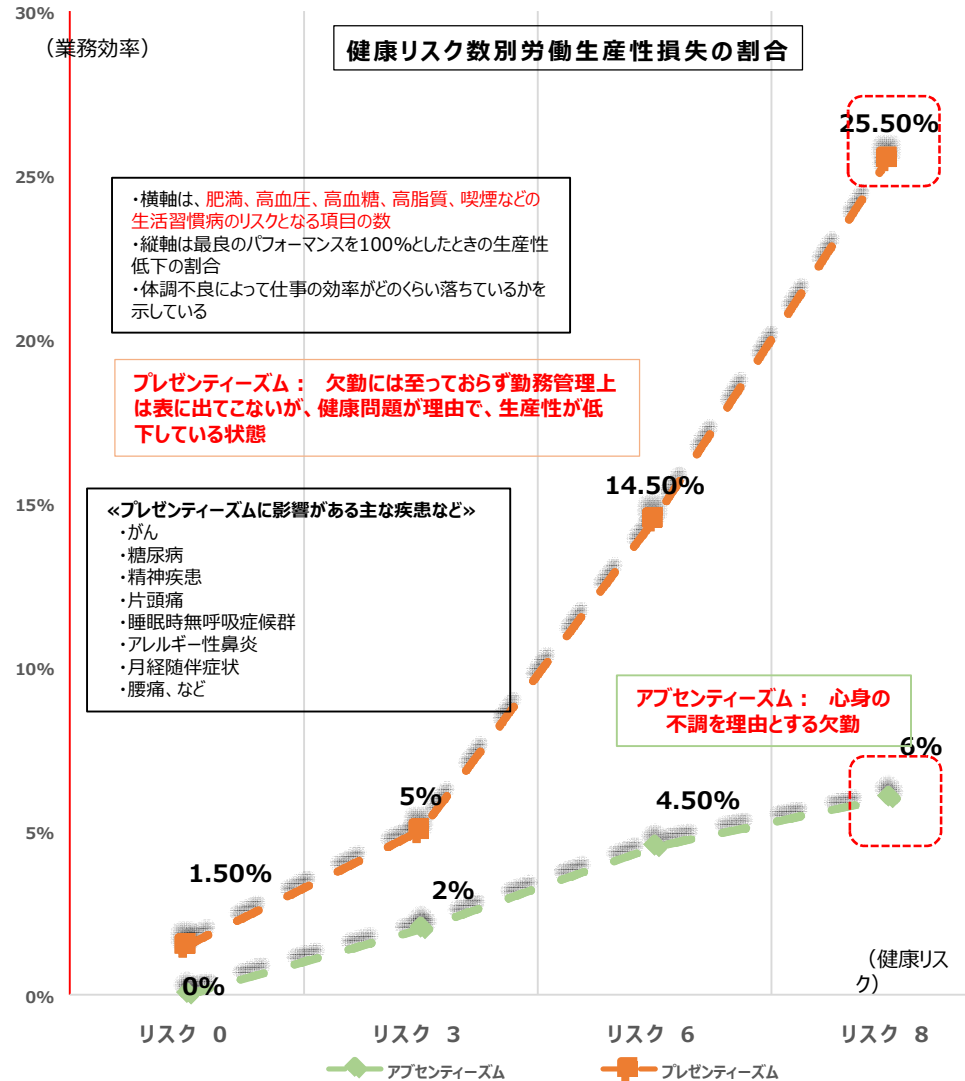
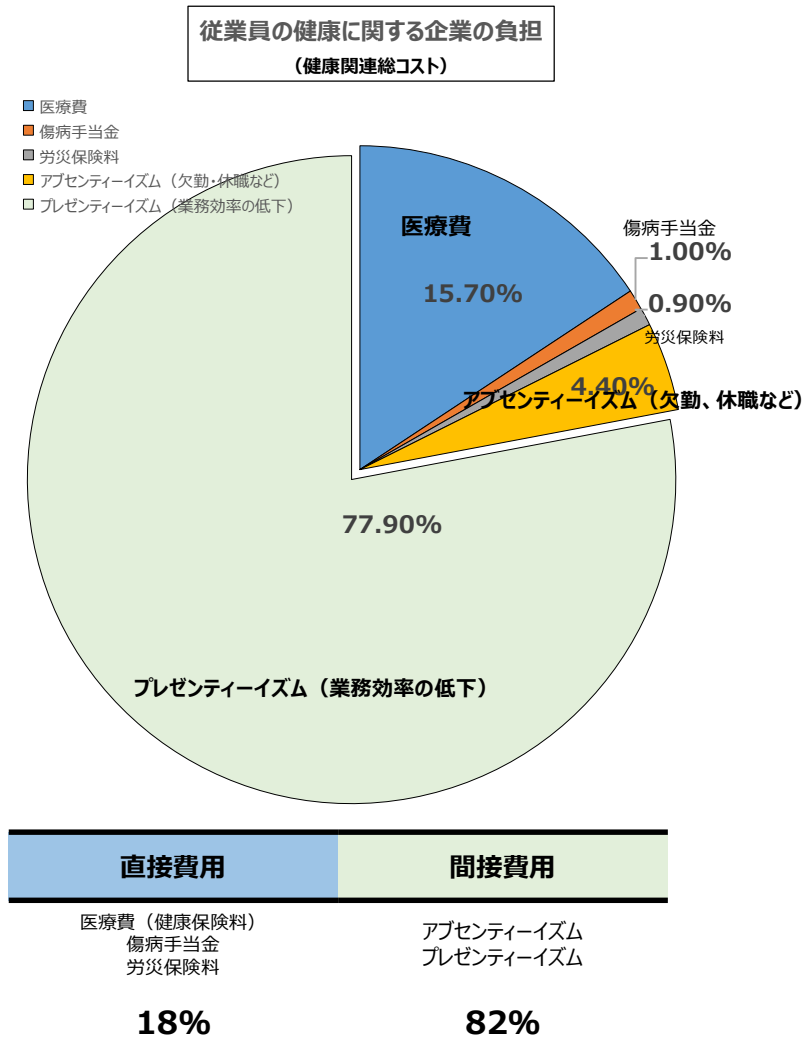
～疾病を抱える労働者が職場に希望する配慮事項（複数回答可）～



出典：独立行政法人労働政策研究・研修機構2018年報告「病気の治療と仕事の両立に関する実態調査（WEB患者調査）」

● 攻めの健康経営① ～労働生産性の向上（アブゼンティーズムとプレゼンティーズム）

- 出勤はしているが、心身の不調により健康リスクが8項目ある人は、業務効率が**25.5%低下する（プレゼンティーズム）**
- “健康リスクが高くなれば生産性が低下し、労働損失が大きくなる” 今後は**プレゼンティーズムのコストにも注意を払っていく必要がある**



● 攻めの健康経営② ～従業員の活力向上（ワークエンゲージメント・従業員の定着）

● ワーク・エンゲージメント

- ・仕事から活力を得ていきいきとしている（活力）
- ・仕事に誇りとやりがいを感じている（熱意）
- ・仕事に熱心に取り組んでいる（没頭）

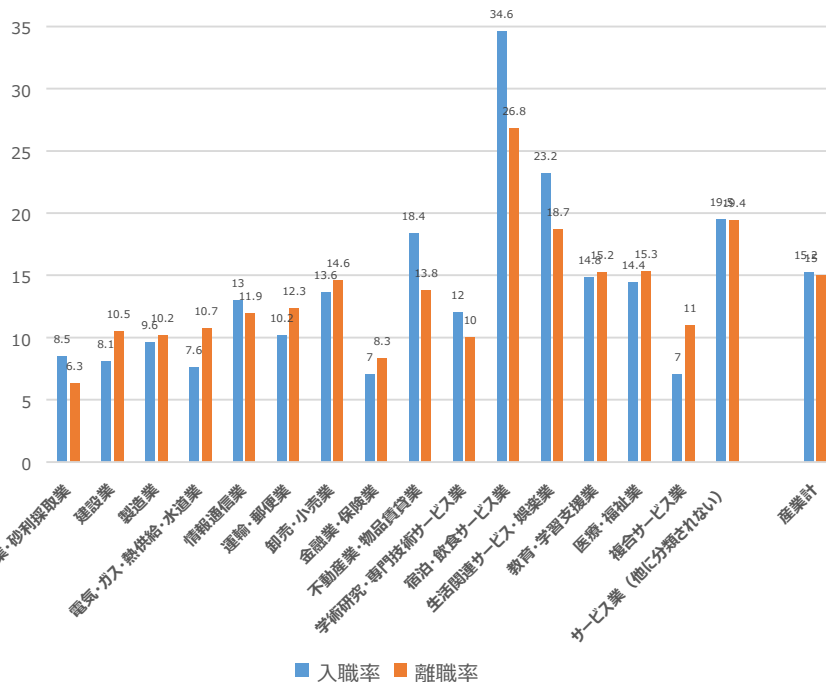
この3つが揃った状態



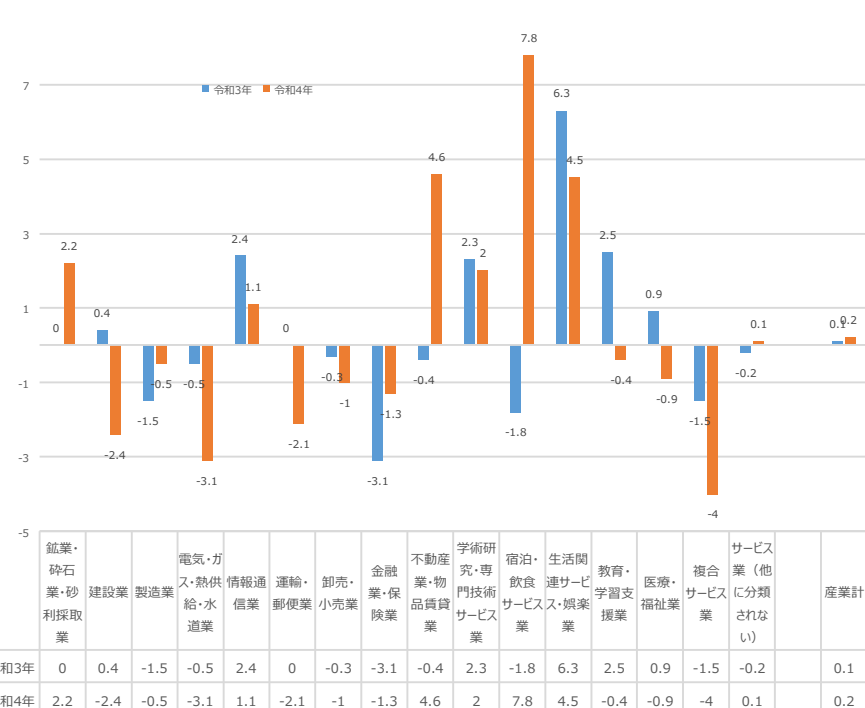
● ワーク・エンゲージメントを高めるメリット

- ・生産性の向上
- ・離職率の低下
- ・顧客満足度の向上

産業別入職率・離職率（令和4年（2022））

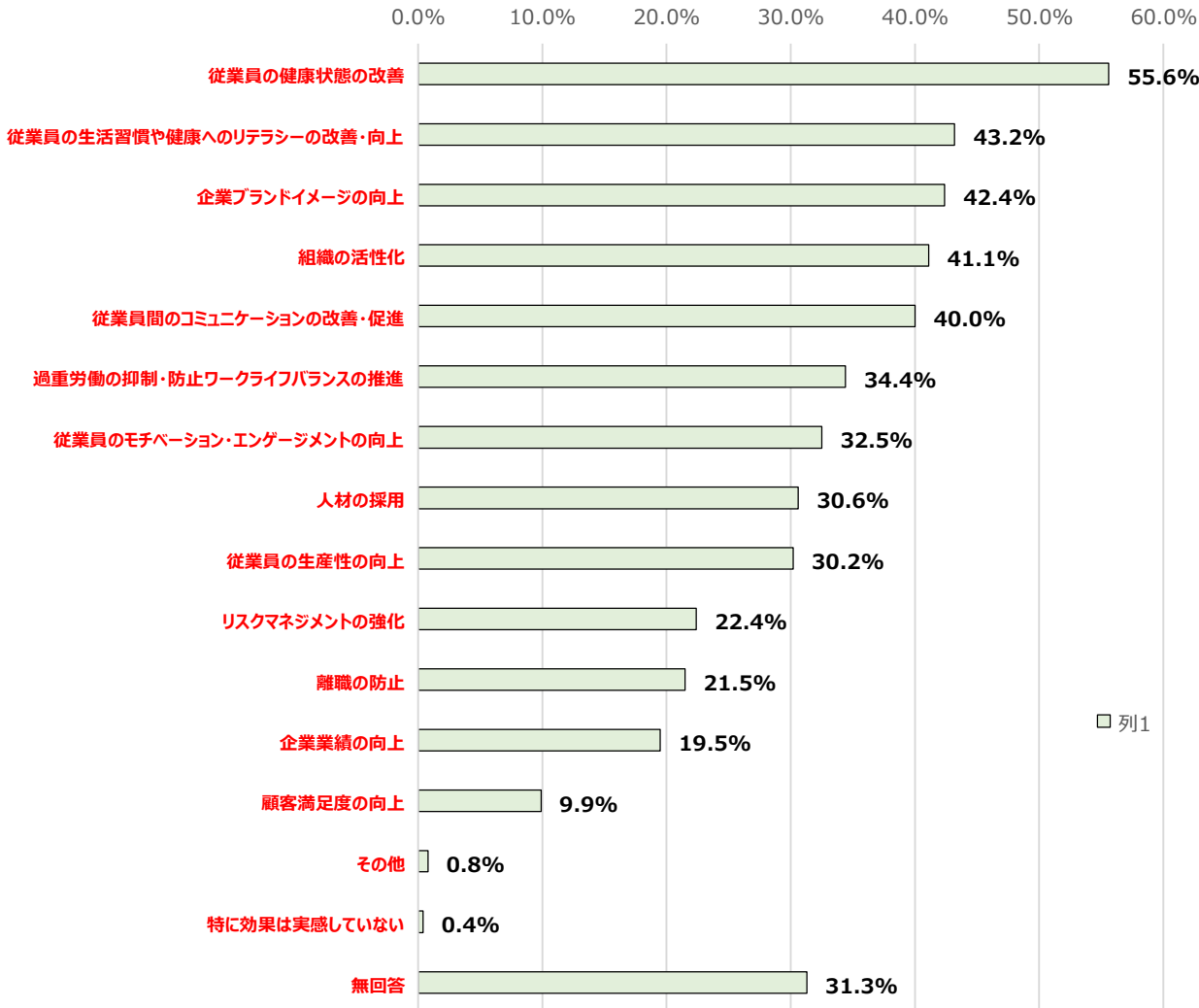


産業別入職超過率（令和3年・令和4年比較）

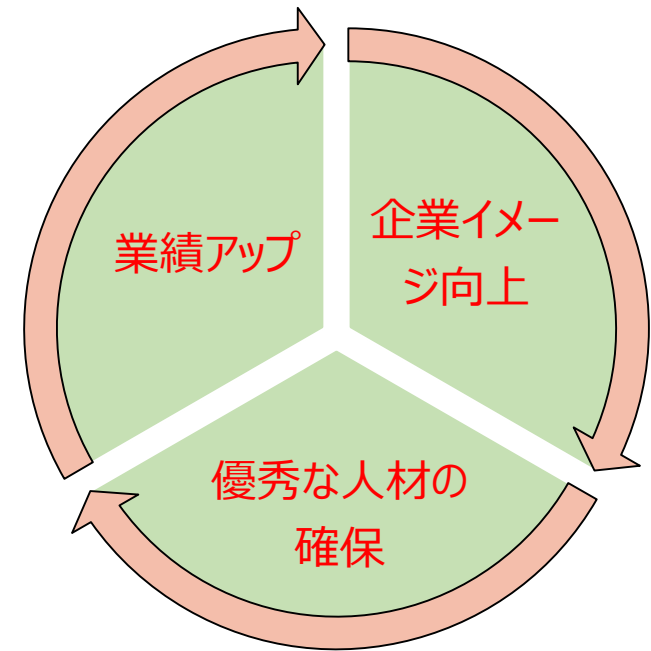


● 攻めの健康経営③ ～社会的評価と企業イメージの向上

健康経営を推進する中小企業が実感している効果



企業イメージ向上による正のスパイラル（イメージ図）



□ 列1

1. 健康経営に取り組む背景
2. 健康経営とは・・・
3. 健康経営の推進（攻めの健康経営・守りの健康経営）
- 4. 健康経営優良法人2023認定事業所の取組事例**
5. 協会けんぽの健康事業所宣言
6. 最後に・・・

●健康経営優良法人2023認定事業所の取組事例①

【株式会社 ミツウマ】

●事業所概要

本社小樽市 ゴム工業用品・長靴製造業ほか 従業員90名 創業100年を超える老舗の企業

●健康経営の取組み

健康事業所宣言は2017年8月 **健康経営優良法人（中小規模）2021、健康経営優良法人（ブライツ500）2022・2023連続認定**

	2019	2020	2021
特定健診受診率 (生活習慣病予防健診及び事業者健診)	96.6%	92.2%	97.0%
特定保健指導実施率（初回）	66.7%	76.9%	75.0%

●健康経営に取り組んだ経緯

取引のある生保会社から健康経営サポートの誘いがあり、喫煙者の減少を自社の課題と認識していたところでもあったので、これを機に健康経営に取り組むこととした。取組みに際しては認定取得だけを目的にすると長続きしないので、“常に社員のことを考えて取り組むこと”を前提に取り組みを開始した。

●自社の健康経営の特色

労働安全衛生等に関して従前から取り組みを強化しており、それに伴う規程・ルール等も整備され、歴史的な下地から社員の健康意識は高い。特に**健診受診と特定保健指導の実施は健康経営にとって重要であり受診勧奨を継続強化**している。また社内に医務室があり、産業医や看護師（隔日勤務）が来社、適宜健康相談可能な体制としている。

●健康経営に取り組んだ効果

①社員の健康意識が向上、②超過勤務対策により長時間超勤者がほぼいなくなったこと、③ブライツ認定で他方面から問い合わせが多数入り事業コラボのお誘いなど商売面で実効果がでてきたこと、など。

●今後の課題

①喫煙者の大幅な減少、②“ブライツ500認定”の社内・社外に対するさらなるアピール・発信強化、③社員の健康意識のさらなる向上、など。

●健康経営優良法人2023認定事業所の取組事例②

【橋本電気工事 株式会社】

・事業所概要

本社札幌市東区 電気工事・通信工事業ほか 従業員43名

・健康経営の取組み

健康事業所宣言は2019年9月 ⇒ **健康経営優良法人（中小規模）2021、2022、2023 連続認定**

	2019	2020	2021
特定健診受診率 (生活習慣病予防健診及び事業者健診)	100%	97.0%	100%
特定保健指導実施率（初回）	75.0%	28.6%	66.7%

●健康経営に取り組んだ経緯

取引のある生保会社から健康経営サポートの誘いがあり、健康経営の必要性を理解し、**代表者のトップダウンで取組みを開始**した。当時、社内で大病を患う社員が連続したこと、人材採用面で企業イメージアップを図りたい狙いもあった。

●自社の健康経営の特色

労働安全衛生面に関しては従前から取組みを強化しており、認定項目に対してほぼすべて取組済であり、回答に困ることはなかった。**健診受診と特定保健指導の実施は健康経営にとって重要であり受診勧奨を継続強化**しており、健診は生活習慣病予防健診を会社負担でその他オプション検査も2項目まで会社負担として実施している。

●健康経営に取り組んだ効果

①特保受診率・再検査受診率などが向上、②HP等への周知によって人材採用面で効果、③健診と特保受診は徹底して伝えてきたことで“受診しなければならない”という意識が社員に定着、など。

●今後の課題

①社内における理解・認知度が不十分（経営者と社員間の意識差）、②社外のステークホルダーに対するアピール・発信強化、③課題を克服した後の“ブライツ500”認定取得、など。